

「時間」をかけて学ぶことの価値



大学院教育学研究科長
高瀬 雅弘

この春の訪れとともに教職大学院には第8期生20名が入学しました。また新たに2名の教員が加わりました。

今年の弘前の桜は開花から満開までがあったという間で、一分咲き、三分咲き、五分咲き…といった声を聞くことなく見頃を迎えました。

それはおそらくは気候変動によるものなのでしょうが、私にはどこか昨今の「時間」の流れの速さと重なっているようにも思われました。

近年、社会の中の「時間」をめぐる価値は大きく変容しつつあります。コストパフォーマンス（コスパ）に加えてタイムパフォーマンス（タイパ）という価値が重視され、効率よく最短距離で進むのがよしとされるようになっていきます。その一方で現代は、別の形で「時間」のあり方が鋭く問われる時代でもあります。学校の働き方改革には、教員にとっての「時間」に対する問題意識が含まれています。令和6年3月に策定・公表された青森県教育政策の大綱「あおもり未来教育ビジョン Ver 1.0」には、進めるべき方策として〈教職員の余白づくり〉が謳われています。そこではこれまでとは異なる「時間」の創出が求められています。

このような社会のもとで、教職大学院であえて「時間」をかけて学ぶことの価値とは何だろうか、と考えます。その答えは教職大学院のホームページにちゃんと書いてあります。でもそこに勝手に付け加えるなら、複数の多様な「時間」が交差する場で、それぞれの「時間」に触れ、その意味を考える、ということもあるのではないかと思います。

子どもと大人の生きる／感じる「時間」の感覚は違います。同じ大人であっても教員、ミドルリーダーの院生、ストレートマスターの院生、それぞれが重ねてきた「時間」の長さや性質も異なります。異なる「時間」を生きてきた人びとが交流し、切磋琢磨できることは教職大学院の大きな魅力だと私は考えています。ここで過ごす「時間」が、それぞれのキャリアのなかで実り多きものとなることを願っています。

大学院教員を校内研修会等で**無料**でご活用ください！

教職大学院では、本大学院教員を謝金、旅費ともに無料で、青森県内の各校の校内研修会、小・中・高・特別支援学校の教育研究会等に講師として派遣する活動を行っています。

この活動は、本大学院の現職教員院生が、講師派遣の依頼を受けた大学教員に帯同して研修会等に参加させていただくことで、研修会等の運営の仕方を学ぶこと等を目的としており、本大学院の実習の一環（だから無料）として行われるものです。

本大学院教員が助言や指導を担当できるテーマや内容は、本大学院のホームページに掲載しているリーフレットを御覧ください（「弘前大学大学院教育学研究科」で検索）。

講師派遣の申込方法は極めて簡単で、A 4 判申込用紙 1 枚に必要な事項を書いて F A X で送信するだけです。申込用紙の様式は、リーフレットと同じく、ホームページにあります。

なお、研修会開催後の面倒な報告書の提出等は一切ありません。

申込は随時（来年 1 月頃まで）受け付けますが、申し込みが早ければ早いほど、皆様の御希望に添える可能性が高くなります。ぜひ、御検討ください。



2025度の教職大学院の入試について

2025度の新たな院生を迎える入試が下記のように決まりましたのでお知らせします。

第 1 期・・・推薦特別選抜・一般選抜：9 月 28 日（土）

〔出願期間は 8 月 26 日（月）～8 月 30 日（金）、説明会は 7 月 24 日（水）午後 4 時〕

第 2 期・・・推薦特別選抜・一般選抜：11 月 23 日（土・祝）

〔出願期間は 11 月 1 日（金）～11 月 8 日（金）、説明会は 10 月 23 日（水）午後 4 時〕

第 3 期・・・一般選抜：12 月 21 日（土）

〔出願期間は 12 月 2 日（月）～12 月 6 日（金）、説明会は 11 月 27 日（水）午後 4 時〕

ただし、合格者数の合計が募集人員に達した場合、それ以降の募集を実施しないことがあります。

＊詳しくは、ホームページの入試情報をご覧ください。



新任教員紹介



山田 彰利 教授



この3月に青森市立佃小学校長を役職定年し、本教職大学院に着任いたしました山田 彰利（やまだ あきとし）と申します。多くの子ども達、保護者、地域の皆様と出会う中で、佃小学校では「子どもも職員も保護者も地域住民も、一人一人が輝く学校」を目指し、多様な実態の子ども達一人一人の自己肯定感を高めるための教育活動に励んで参りました。職場の仲間や保護者、地域にも恵まれ、学校の子供達を成長させる力の大きさを感じた日々でした。また、教員という職業の素晴らしさも改めて感じる事ができました。

本教職大学院では、理論と実践との往還・融合を通じて、「自律的發展力」「協働力」「課題探究力」「省察力」のさらなる向上を目指すとされています。この4つの力を高め、教職の素晴らしさを分かち合いながら、院生の皆さんとともに学んでいきたいと考えています。

教職員の皆さん、院生の皆さんに出会えたことに感謝し、有意義な時間を共有できることを楽しみに、本教職大学院での実践を進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

川端 良介 准教授



地元である大阪を離れ、約20年前に弘前大学に入学した際、私が本学の教員になるとは想像もしていませんでした。しかしながら、様々なご縁があり、本学に赴任できたことを非常に嬉しく思います。

現在、青森県は「短命県返上」というスローガンを掲げ、健康寿命の延伸を目指して健康教育に力を入れています。児童・生徒が健康に興味を持ち、自ら行動する能力を身につけることで、ウェルビーイングな状態に近づくことができます。一方、超高齢化社会である現代では、現時点での心身、社会的に良好な状態は重要ですが、児童・生徒が将来高齢者になったときにもウェルビーイングな状態であることを見越した健康教育が重要です。私は本学で健康教育に携わることになりましたので、青森県に住む児童・生徒が将来においてもウェルビーイングな状態になり、結果として健康寿命の延伸に繋がりたいと考えています。

また、以前の職務では、一教員として目の前の学生の成長を支援することに専念していましたが、教職大学院では学生のその先にいる児童・生徒のことも考えて成長を促すだけでなく、学生とともに私自身も成長できればと考えております。

学習評価や学校組織について考え語り合いませんか？ —「教師学び工房：グロウアップ講座」のご案内—

今年も学び続ける教師を支援する「教師学び工房：グロウアップ講座」を開催します。本講座のテーマは、昨年度も好評だった学習評価と学校組織です。8月6日（火）および10月31日（木）実施のグロウアップ講座①は、近年注目されているパフォーマンス課題やループリックの作成方法や活用方法に関するワークショップです。「なぜ学習評価が最近注目されているのだろうか」「パフォーマンス課題やループリックって聞いたことがあるけどなんだか難しそう」とお考えの方にオススメの内容です。7月23日（火）および9月19日（木）実施のグロウアップ講座②は、参加者のみなさんがミドルリーダーとしてご活躍するための第一歩を支援する講座です。「子どもたちのために学校という組織をよりよくしたいけれど何から始めればよいのだろう」と日々お感じの方にオススメです。グロウアップ講座①・②の申し込みの締め切りは、6月28日（金）です。



グロウアップ①
学習評価



グロウアップ②
学校組織

ミドルリーダー養成コース

浅利 美穂（青森市立浪館小学校）



教職大学院に入って3週間が経ちました。学校で勤務していた形態とはがらりと変わり、今は講義や実習などで、理論や事実をもとに課題を見付ける力や議論する力、そして状況や理論、事実をもとに

振り返る省察する力を身に付けられるよう毎日奮闘しています。また、違う地域、校種の中ドルの先生たちやストマスの院生のみなさんと学び合い語り合い、自分にとって新しい発見や今までの自分を振り返ることができるとても貴重な時間を過ごしています。現場に戻ったときに、ここで学んだことを子供たちや学校のために少しでも還元できるよう、一日一日を大切に学び続けパワーアップしていきたいと思っています。

遠藤 彩華（八戸市立城北小学校）



現場を離れ、3週間がたちました。教職大学院のお話をいただいたときは、教職大学院についての知識はなく、どのようなことを学ぶのか不安になり、大学院に行くべきか、とても悩みました。しかし、大学のホームページから情報を得たり、先輩の先生からお話を聞いたりするうちに、これまでの実践を振り返るよい機会となるのではないかと考え、進学を決意しました。大学院での学びは、新たな視点で物事を見たり考えを深めたりするだけでなく、専門性を高めるために必要な知識を身に付けることができる場であると実感しています。今回、このような機会を頂いたことに感謝の気持ちをもつとともに、快く送り出してくださった勤務校の先生方、そして子どもたちに2年間で学んだことを少しでも還元できるよう、より一層勉学に励んでまいります。

かし、大学のホームページから情報を得たり、先輩の先生からお話を聞いたりするうちに、これまでの実践を振り返るよい機会となるのではないかと考え、進学を決意しました。大学院での学びは、新たな視点で物事を見たり考えを深めたりするだけでなく、専門性を高めるために必要な知識を身に付けることができる場であると実感しています。今回、このような機会を頂いたことに感謝の気持ちをもつとともに、快く送り出してくださった勤務校の先生方、そして子どもたちに2年間で学んだことを少しでも還元できるよう、より一層勉学に励んでまいります。

高坂 洋輔（青森県立青森第二高等養護学校）



教師として、経験を積み重ねてきた中で、何度も「違う指導の方法があったのでは」、「もっと適切な対応ができたかも」と自問自答を繰り返すことがありましたが、日々の

業務に追われ、自分自身を振り返る時間がなかったのが現状です。この教職大学院での学びをとおして、これまでの自分を振り返りつつ、教師としてさらなる成長のため日々精進していきたいと思っています。

経歴や校種が異なるミドルの先生方や意欲的なストレートマスターの院生の皆さんと課題や意見交換をしていることが、私にとって最大の刺激であり、毎日が新鮮です。同じ志をもつ仲間と共に学び、互いに高め合っていければと思います。

三戸 大志（田舎館村立田舎館中学校）



社会変化のまなざしから「学校教育とは〇〇でなければならない」などの様々な教育言説があふれる中、学校で教える立場から学ぶ立場で研鑽する機会をいただき感謝の気持ちとともに、改めて「勉強する」ことの楽しさや幸せを感じています。大学院では、これまでの自分の「当たり前」を様々な視点から問い直され、別様のあり方があったのではないかということに気づかされています。この気づきを、子どもたちや学校に還元できるような実践にどう結び付けることができるのか、院生の方々と共に学び、深めていきたいと思っています。今置かれた環境で最大限努力し、教員としての体幹を鍛える思いで努めて参ります。

勉強する」ことの楽しさや幸せを感じています。大学院では、これまでの自分の「当たり前」を様々な視点から問い直され、別様のあり方があったのではないかということに気づかされています。この気づきを、子どもたちや学校に還元できるような実践にどう結び付けることができるのか、院生の方々と共に学び、深めていきたいと思っています。今置かれた環境で最大限努力し、教員としての体幹を鍛える思いで努めて参ります。

長嶺 海（青森県立青森西高等学校）



高等学校で長年勤務し、生徒や組織、地域に貢献できているのか、このままでいいのかという思いが年々強くなり、大学院で学びたいと思いました。在籍校の先生方をはじめ、色々な方のお力で再び学ぶ機会をいただくことができました。入学してからは時間の経過が矢のようです。課題や不安に追われながらも、やはり学ぶことは楽しいと、改めて感じています。それも、大学教員の先生方や共に学ぶ他校種の教員の皆さん、ストリートマスターの方たちから毎日多くの刺激を受けられるこの環境が大きいと思っています。この幸せな時間を無駄にせず、自分を磨き、青森県に貢献できる教員へと成長することを目指して努力を重ねる1年としたいです。

高等学校で長年勤務し、生徒や組織、地域に貢献できているのか、このままでいいのかという思いが年々強くなり、大学院で学びたいと思いました。在籍校の先生方をはじめ、色々な方のお力で再び学ぶ機会をいただくことができました。入学してからは時間の経過が矢のようです。課題や不安に追われながらも、やはり学ぶことは楽しいと、改めて感じています。それも、大学教員の先生方や共に学ぶ他校種の教員の皆さん、ストリートマスターの方たちから毎日多くの刺激を受けられるこの環境が大きいと思っています。この幸せな時間を無駄にせず、自分を磨き、青森県に貢献できる教員へと成長することを目指して努力を重ねる1年としたいです。

細田 瑛介（青森県立五所川原高等学校）



これまでの教員経験を振り返ると、日々の業務に忙殺され、じっくり学ぶ機会を作てこなかったように思います。生徒指導や進路指導、教科指導など、様々な面で教員としての力不足を感じることが

あり、「このままでいいのか？」という思いを常に抱えていました。そのような中で、教職大学院で学び、成長できるチャンスをいただいたことに、感謝と喜びを感じています。

教職大学院では、他校種・他教科の先生方やストレートで進学した大学院生と共に学び合うという、現場ではできない経験をすることができます。この貴重な2年間で教員としての知識の幅や視野を広げ、学校の課題解決の中心的役割を果たせるような教員になれるよう頑張ります。

山内 千秋（鶴田町立鶴田小学校）



「教職大学院で学んでみないか」この一言が、私と弘前大学を、そして魅力ある教職大学院の教授の先生方や同じ志をもった仲間たちと出会わせてくれるきっかけになりました。今も不安ありますが、

覚悟を決めて飛び込んだこの場所での学びは、予想

通り劇的で毎日が本当にあつという間です。すべて吸収して自分を成長させたちという思いで日々取り組んでいます。この1年間でより専門的で実践力のある教師、頼られるミドルリーダーを目指して精進していくとともに、今後一層多様化、複雑化していくであろう教育課題の解決のため、理論と実践の往還・融合を通じた省察力を身に付け、学んだことを少しでも現場に還元できるよう、努めて参ります。

横濱 和也（六ヶ所村立千歳平小学校）



「あなたの夢はなんですか」。教職大学院初日のペアでの自己紹介、最初に受けた質問がこの言葉でした。私は、教師として日々を過ごす中で、自分の夢や目標（教師像）が次第に曖昧になってい

ました。一度自分自身を見つめ直した方が良いのではないかと、まさに「教師のウェルビーイング」への思いが強くなっていたタイミングで、この度弘前大学教職大学院で学べることになり、天啓めいたものを感じています。

ここでは、「挑戦を恐れず、失敗から学ぶ」ことを、シンプルかつ貪欲に追求し、一つ一つの学びに誠実に向き合っていきます。ここでの学びを1年後、子どもたちや教員の仲間たちに還元できるよう、理論と実践の往還・融合を繰り返し、自分なりのミドルリーダー像を確立するために、日々精進していきます。

学校教育実践・教科領域実践・特別支援教育実践コース

加藤 広之（学校教育実践コース）



私は、教職大学院でより自分自身の力を向上したいと思い入学しました。商業高校は年々数が減少していています。ですが、商業科目は社会との結びつきはとても強く、自分が学習していることが社会でどのように役に立つか理解し学習している生徒は多くないと感じます。教職大学院でもう一度教育に関する理論や知識を深く学び直し、それを授業に活用できるように日々の学習を大切にしていきたい

と思います。2年という短い時間ですが、自分を信じ応援してくれてる人たちに少しでも成長したと感じ取ってもらえるように、この大学院生活を頑張っていきます。

熊谷 翼（学校教育実践コース）



学校教育実践コースに進学しました、熊谷翼と申します。名字の読み方はくまたにです。学部時代は公立中学校と教育支援センターでの非常勤職員や、高等学校での部活動外部指導員として教育に携わ

ってきました。教職大学院では、理論と実践の往還を通して、学校現場での実践力を身につけるとともに、「自己効力感」をキーワードとした、不登校の事前予防に関する研究に邁進したいと考えております。また、これまで携わってきた方々、これから携わる方々との出会いや縁を大切にしながら、教員としての資質能力の向上に励んでいきたいと考えております。2年間、どうぞよろしくお願いいたします。



佐藤 希泉（学校教育実践コース）



私は他大学出身であるため、弘前大学で学ぶことに不安と大きな希望を抱きながら入学しました。話し合いを重ね、新たな考えに触れる毎日は刺激的で充実しています。

これまで受験で思うような結果が得られず、苦しい経験を多くしてきましたが、今でも学ぶことが好きだと思っているのはこれまで出会ってきた先生方のおかげです。私は、「学ぶ楽しさ」や「自分は大切にされている存在だ」と子どもたちが実感できるような教師を目指します。忙しい日々ではありますが、振り返りの時間に重きを置き、人としても成長できるように努力し続けます。

佐藤 恒太（学校教育実践コース）



初めまして、学校教育実践コース所属の佐藤恒太です。私が教職大学院に進学したきっかけは教職に関する知識不足を学部時代に感じ、不安を抱えたまま教育現場に出たくないと思ったからです。教職大学院の魅力はミドルリーダーとの交流にあると思います。一度教育現場に立った人との交流を通して知識はもちろんのこと、将来自分が現場に出た際の参考にしたいと考えています。2年間を通して自分の不安をなくし、教育者として成長したいと思います。

佐藤 譲（学校教育実践コース）



私は、本学の教育学部小学校コースを卒業し、教職大学院に入学しました。進学を決めた理由は教育実習等を通して、自分の能力に不安を感じ、もっと自信をつけた状態で子どもたちに関わりたと思ったからです。現在は、新しい環境に慣れるのに必死で過ごしています。また、現職教員の皆さんと共に学べるという貴重な経験を得られていることを非常に嬉しく思っています。多種多様な情報を柔軟に取り込み、自らの自信

につなげられるように積極的に学びに参加したいと考えています。教職大学院での毎日を有意義な時間にできるよう、精一杯頑張りたいと思います。

八木橋 奈緒（学校教育実践コース）



私は、教職大学院での学びのなかで、教員としての資質・能力を高めたいと思い進学しました。授業が始まり1週間ほど経ちましたが、毎日が新しいことの連続で、目まぐるしくも充実した毎日を過ごしています。ミドルリーダーの方々の現場での豊富な知識や経験を話し合いのなかから取り入れ、理論と実践の往還をしていく中で、共に学ぶ仲間と高めあい、この2年間を実りあるものにしたいと考えています。よろしくお願いいたします。

山上 昭恩（学校教育実践コース）



入学してから2週間が経ち、すべての授業を通して総合的に学びが深まり、また、授業と実習による理論と実践の往還の中で、ひとつずつではありますが実感をもって学びが深められることに充実感を感じています。

私が入学を決めたきっかけは、教育を変えていかなければならないと漠然と思っていた時に、本大学院での公開授業に参加し、教育の理論を学ぶことへ深い喜びを感じたからです。

大学院では、2年間という短い期間の中で、だれ一人取り残さない教育、児童生徒及び教師のウェルビーイングに向けて、課題を発見し、協働的に学びながら省察力を身につけ、生涯学び続ける教師として「学びのエキスパート」を目指していききたいと思います。





山谷 峻右（学校教育実践コース）



私は他大学からこの弘前大学教職大学院に進学しました。青森県出身であり、元々地元で教師になろうと考えていました。しかし、教育学部出身ではないため教育について専門的に学んでおらず、学

部を卒業してすぐに教師になって仕事をやっていけるのかという不安がありました。そこで、地元である青森県の教職大学院に入学し、教育について専門的に学ぶとともに青森の教育についても学びたいと考えました。

教職大学院ではミドルリーダー養成コースの現職の先生たちと議論する場もあり、とても充実しています。授業・実習を通して学校教育の現状と課題を知り、その解決に向け自ら考え実践する力を身につけたいと考えています。

久保 光彰（教科領域実践コース）



私は本学の教育学部を卒業し、教職大学院に進学しました。中学校の数学教育を専攻しており、文字式の学習指導について研究をしています。

学部の教育実習や卒業研究では、予想される生徒の躓きと

その手立ての方法が課題となりました。私は、生徒が主体的に学習活動に取り組む「問題解決型」の授業を実践すること、予想される躓きに対する手立てを豊富にすること、生徒の誤答を分析して授業改善に活かすことの3点を目標とし、講義の受講と教育実習を通して、学習指導の方法を理論と実践の両面から深めて参ります。

また、実習校の先生方、大学院の先生方、現職の先生方、学部卒の院生との話し合い活動や省察会等の協働的な学びを通して、学級経営や生徒指導の力量も高めていく所存です。

高塚 夏海（教科領域実践コース）



私は本学の中学校コース国語専修から教職大学院に進学いたしました。学部時代の実習で、自身の指導力や生徒理解が不足していることを実感し、このまま現場に出ることに不安がありました。教職大

学院での学びを通じて、教員としての力を養い、学校で働く自分の姿を具体的に思い描けるようになります。まだ授業が始まったばかりですが、現場を知るミドルリーダーの方々と、同じ目標・熱量をもつストレートマスターのみんなとの話し合いはとても楽しく、自分の中でもっと学びたいという意欲が湧いてきます。充実した2年間となるようにこれから頑張っていきます。

前田 凌玖（教科領域実践コース）



私は、教育に関する知識や授業づくりの向上を目標に掲げ、教職大学院への進学を決めました。大学院では、「生徒の主体性を高めることのできる英語教員」に必要な専門性を理論と実践の往還と融合

の過程で身に付けたいと考えています。教職大学院に入学したばかりですが、既に校種や教科が異なる現職院生やストレートマスターの仲間から多面的・多角的な視点から物事を見ることの大切さを学ぶことができています。この2年間という限られた期間で学べる機会に感謝しつつ、目標としている教員になるという気持ちを常に絶やさずに努めていきたいと思っています。

三上 紘輝（教科領域実践コース）



教職大学院に入って早くも1週間が経ち、今までの教育に対する価値観や考え方がどんどん変わっていくことに少し不安を感じています。しかし、それとともに、この2年間を過ごした自分の姿を考え

ると不安以上にわくわくしています。これから実習も入ってきて、より一層目まぐるしい日々になると思います。実習先の先生、大学院の先生方や親への感謝を忘れず、大学院で学んだ知識を生徒のより良い未来に繋げられるよう頑張っていきます。これからの2年間をどうぞよろしくお願いいたします。



教育実践研究発表会」(年次報告会・最終報告会) 実施 —県外からも御参加いただき—

令和 6 年 2 月 13 日(火)、青森県総合学校教育センターさんをお借りし、「対面」と「オンライン」併用による「教育実践研究発表会」を実施いたしました。教育委員会・教育機関関係者、院生、修了生、現場の先生方、大学教員、学部生にオンライン参加者、そして県総合学校教育センターの方々が会場に機器運営スタッフとして加わってくださり、総勢 200 名以上での開催となりました。

教職大学院院生は、2 年間で 3 回の研究発表会を行います。2 月 13 日の発表会が 1 年次院生にとっては初めての発表会になります。この発表会に至るまで、1 年次院生は、「教育実践研究法」という授業において研究の進め方を段階的に学んでいきます。研究の意義、リサーチクエスションの立て方、研究倫理、エスノグラフィーとその技法等研究の基礎を学び、先行研究の読み込み、理論研究、実習やゼミ等を通して 1 年次の中頃から研究テーマを絞り込んでいきます。授業実践や勤務校実習を通して仮説を検証し、考察を加えて成果や改善点を明らかにし、第 1 回目の発表である「年次報告会」を行います。

2 年次には、これまでの実践上の課題を焦点化し、仮説の修正等を行い、実践研究を進め、個別ゼミや全体ゼミにて様々な視点から意見をもらい、11 月上旬に 2 回目の発表である「中間報告会」を行います。「中間報告会」で明らかになった課題をもとにさらに実践研究を進め、考察し成果と残った課題を明らかにし「最終報告書」とプレゼン資料を作成して、教育実践研究の集大成であり 3 回目の発表会である「最終報告会」に臨みます。

学部卒院生の研究テーマのキーワードとしては、「授業のユニバーサルデザイン」「興味・関心を向上させる授業づくり」「根拠のある考えの形成を目指して」「運動習慣の獲得を目指した授業づくり」など多岐にわたりますが、比較的個人の実践研究が主となります。現職教員院生の研究テーマのキーワードとしては、「小中一貫校における協働的な授業デザイン」「ケア的思考の醸成を基板とする自治能力の向上」「多元的な非認知能力獲得」「少人数制で行う校内研修」「1 人 1 台端末に対する教師の意識変容」など、可能な限り同僚との協働的な取組を視野に入れた実践研究となっています。当日は、参加してくださった方々や修了生の皆さんから、多くの質疑や感想等、励ましと温かいコメントをいただき、とてもありがたく思っております。



また、今回の教育実践研究発表会に際し、御挨拶いただきました県教育委員会教育長 風張知子様、現場の目線で御助言・御講評くださいました弘前市立第四中学校長 石田盛彦先生、五所川原市立五所川原第二中学校長 小野強幸先生、弘前市立朝陽小学校長 山本正弘先生、県立弘前高等学校長 古川浩樹先生、院生に多くに気付きと励ましをくださった県教育委員会の先生方、発表を支援してくださった県総合学校教育センターの皆様に心から感謝を申し上げます。

2024 中間報告会・教育実践研究発表会

①中間報告会 11月2日(土)

会場：弘前大学教育学部

②教育実践研究発表会 2025年2月10日(月)

会場：青森県総合学校教育センター

※いずれも対面・オンライン併用。

〈編集・発行〉

弘前大学 大学院教育学研究科教職実践専攻
(教職大学院)

〒036-8560 青森県弘前市文京町 1 番地

Tel 0172-36-2111(代表)

メールアドレス k-daigaku01@hirosaki-u.ac.jp